

| 第14回草津市総合計画策定委員会概要 | | |
|--------------------|--|--|
| 日 時 | 平成21年11月5日(木) 17時30分～19時10分 | |
| 会 場 | 庁議室 | |
| 出席者 | 橋川委員長、山岡副委員長、三木委員、加藤委員、北川委員、田内委員、勇委員、西村委員、中村好委員、片岡委員、岸本委員、平井委員、田村委員、森委員、林田委員、山本委員、中村良委員、浅見委員代理 | |

1. 開会

2. 議事

1) リーディング・プロジェクトについて

事務局から説明

《意見等》

- ・策定審議会等からはどのような意見が出ていたのか。
→プロジェクトの数をインパクトのある重点的な事業に絞り込み、市民にとってもわかりやすい内容にする必要があるとの意見があった。
- ・資料1-1の7ページにあるように、個別の事業の集合となっており、縦割りになっている。もっと相乗効果があるものにできないのか。
- ・プロジェクトを行うことによって、その事業だけの効果ではなく、広がりを感じられるようにするという事。
- ・「元気」と「うるおい」の2つにまとめているので、分け方が難しいこともある。
- ・歴史資産をいかしたまちづくりを目指すのであれば、草津のブランド力を上げる事業を取り上げていくべき。

2) 国土利用計画について

事務局から説明

《意見等》

- ・市として開発型思考で進めていくのか。アンケート結果では、農地も保全しておくべきとの意見が多かったようであるが。
- ・アンケート結果はどのように考えているのか。
→決して開発型思考ではなく、問7でも工業地域を開発するべきとの意見結果も出ているので、優良農地については積極的に保全を行い、その他についても、すみ分けを行っていくべきであると考えている。具体的には、川の下・御倉地域については、大江霊仙寺線へのアクセス状態も考えて、工業地域として考えている。また、南笠地域については、周辺道路へのアクセス状態を鑑み、農用地以外の用途にする程度に留めている。

- ・資料2-1の工業地域について、「居住と税収のバランス」とあるが、本当に実現できるのか。アンケートでは、まとまった地域において整備すべきと結果であったが。
- 確かに大規模の工業用地の確保も難しいことを考えたうえでの文章となった。検討の必要性は感じている。
- ・住宅地と工業地が隣接することは望ましくない。本当に工業地域の需要はあるのか。
- ・市内では、市内移転を考えている企業が13社あると聞いている。他にも中小企業等もあり、需要はあると考えている。

—以 上—